

兵庫県民会館の詳細な耐震診断（時刻歴応答解析）の結果

1 詳細な耐震診断の結果

本建物は鉄骨鉄筋コンクリート造であり、鋼材が密に入っているため、倒壊までは至りにくいものの、**直下型・長周期の両地震に対して、耐震性判断基準を満たしていないことが判明した。**

区分	結果（層間変形角の最大値）			構造
	耐震性判断基準	直下型地震 （阪神・淡路大震災）	長周期地震 （南海トラフ地震）	
兵庫県民会館	1/100以下	× (1/37)	× (1/95)	SRC造 (鉄骨鉄筋コンクリート)
(参考1) 2号館※	1/100以下	× (1/61)	○ (1/144)	SRC造 (鉄骨鉄筋コンクリート)
(参考2) 議場棟※	1/100以下	× (1/43)	○ (1/108)	RC造 (鉄筋コンクリート)

※令和4年度時刻歴応答解析を実施

《耐震性の判断基準》

- 時刻歴応答解析（地震時の建物の変形度合い）：層間変形角が1/100を超過すれば倒壊の危険性あり

2 利用者への対応

- ・ 2号館では満たしていた長周期地震での数値も、基準値を満たしていなかったこと
 - ・ 直下型地震における数値が、議場棟並みに適合性を満たしていなかったこと
- から、**可及的速やかに県民会館を利用停止**とし、原則として以下のとおり対応することとする

①貸館（ホール、会議室、ギャラリーなど）

⇒ **令和6年10月末**で利用を停止

②入居団体（事務所利用）

⇒ **令和6年12月末日途**に退去（令和7年3月末に完全退去）

県庁2号館及び議場棟の詳細な耐震診断（時刻歴応答解析）の結果概要 【令和5年3月29日総務部発表資料抜粋】

1 時刻歴応答解析の結果

(1) 2号館

長周期地震に対しては、倒壊に至るような大きな被害は生じないが、直下型地震では耐震性判断基準を満たしておらず、倒壊・崩壊に至る可能性があるものの、本建物は鉄骨鉄筋コンクリート造であり、鋼材が密に入っているため、倒壊しにくいと考えられる。

(2) 議場棟

長周期地震に対しては、倒壊に至るような大きな被害は生じないが、直下型地震では耐震性判断基準を満たしておらず、建物に大きな被害が発生し、倒壊・崩壊に至る可能性がある。

区 分	層間変形角（※）の最大値		
	耐震性判断基準	直下型地震	長周期地震
2号館	1/100以下	1/61（×）	1/144（○）
議場棟	1/100以下	1/43（×）	1/108（○）
（参考）1号館（H30実施済）	1/100以下	1/83（×）	1/134（○）

※ 層間変形角

地震時の建物の変形度合いを把握する指標であり、地震時の上下階の床の変位差（層間変位）を階高で除したもの

$$\text{層間変形角} = \text{層間変位} / \text{階高}$$

